



明良帶錄

地

9

73
3554
32



保 8
新 刊
子 旦

明良帝録卷之六

高家

世職篇



世職のそは色もあつたに未流くく職をせしむる
官位翻く世職を言上れるに明くく公も此名池を論
のるに達したる人もあつても切なるは職との公家と
致くか、世職の用と新し肝要は後任位か得るは雁の多
り別く十名中へあつても、尚書平日まの余は位位の
侍従や位の侍従の五位の侍従の多る家も限る要約は名代
侍従の位は日光の位は名代侍従の位は五位の侍従の位は
少師位の位は禪之位の中宮入内位の位は名代侍従の位は
少輔の位は少輔の位は少輔の位は少輔の位は少輔の位は

熊鷹あり半六在銘しそ名目は内山を龍司
口常の支那言ひは常事か人元由は少少あり
ふ死あり

御鳥見組頭

口常のさう山常のゆめと能はしし口常の元と持持
口常のさう昇る事は切なるに上り常事なり口常
合口常持あり

御鳥見

諸かは篇あり

奥山太筆組頭

口常のさう口常のゆめと能はしし口常の元と持持
口常のさう昇る事は切なるに上り常事なり口常
合口常持あり

向て高きより明和あるの山太筆方の地獄管と俗の
いじりありあり出奉りあり江録のさうの物常あり
法教と地獄ありありと小洞ありありに連し法あり
ても甲く法ありありと出奉りありありと物常ありあり
甲く洞ありありと法ありありと物常ありありと物常ありあり
地獄ありありと法ありありと物常ありありと物常ありあり
とありありと法ありありと物常ありありと物常ありあり
甲く洞ありありと法ありありと物常ありありと物常ありあり
とありありと法ありありと物常ありありと物常ありあり

表御右筆組頭

口常のさう口常のゆめと能はしし口常の元と持持
口常のさう昇る事は切なるに上り常事なり口常
合口常持あり

編のふと得る玉機とて世に傳へて世に傳へて
今も天文の唐制も精微なり天文を要する也後
之理を後と學人の説とて考へて近以清胡の
此唐象文成ると一家とて又明と申弱也其
新天文意と此制もなりて要なりとて東江
胡前出る天文也其なりて唐の事なりとて
天文編に記す

天文方

四役神 十二條

同下役

銀 五枚

同出役

三人扶持

何事か天文の事なりとて古田江川方なるもの
唐の測量も其と業なり

稻生島神由

先年販賣地海舟の繪圖と製しして近以重
細西の
の首河の地記の果山用なり其
とて國の海舟の玉を例りて
地を例りて七年の事なり其
たふ國に

唐正御札方

唐正御札方の由は
唐の唐正御札方の由は
唐の唐正御札方の由は
唐の唐正御札方の由は
唐の唐正御札方の由は

神道方

唐正御札方の由は
唐正御札方の由は
唐正御札方の由は
唐正御札方の由は
唐正御札方の由は

同歳に同以益馬吏八人神書出改且又修治山内
也及天文方葉第也役を属吏ハ在の如かり山内を此
所へ多一年の上を以て有の事信出得神古儀と

歌学方

北村春の春の雲の多の如くして事以て世に
也村湖えとて家源を百と揚ふ也村山書信の支記に傳
二十代お按行も被る中興文治建之第也世に信
妻も天正慶長に御川出高も遠の事と被の位と
以て田舎の如の園と解またり

連歌師

連歌は定ぬ以来宗祖貞任唱れ知事上りて三條
けさのまに地りえハ里村也呼て花やと信も

中ハ流泉とて嘴の如明地光秀正道と好て返送
受山者事也あつて百韻を信て坂也とて扇も
たり中事あつて連歌と雅と考して里村之代と宗
り信居して毎年正月廿五日の連歌あり

神君革命の由書別とてあり銀色も信ちとてくたより
正月廿五日の連歌の如 清徳院様也是日を遊し十日と
此等のあり西御する由一席も其儀神のつを地とて
あるも信也在歌の如也也

ねまきとてたけとていあまのり
とてい西夏の如信也の如
日節ハいえすやの如信

とて信也の如信あり

因獄

石知事は是に依り宰府を以てよぶる人々をばふる
目録に昔に三年事所を力に合おありしうたれり
其の世に於て石知事兼りしつて西の事ありし
別境ありし人を縛りしありし事ありし事ありし
宿願ありし事ありし事ありし事ありし事ありし

諸組典カ

と方より二番ありしは後代に
多ししは後代に
と一して既の
いふる所は
紅毛の御宮附坊主元

御同所御靈屋附坊主元

はる山内より下ありしと市格の
はる山内より下ありしと市格の
はる山内より下ありしと市格の

御太鼓坊主元

奥御坊主組頭

御数寄屋坊主組頭

同御坊主元

奥御小道具役御坊主元

御用部屋坊主元

御月舟部屋坊主元

所蔵坊主元

御土主と間坊主元

三組肝黃坊立元

表坊立組頭

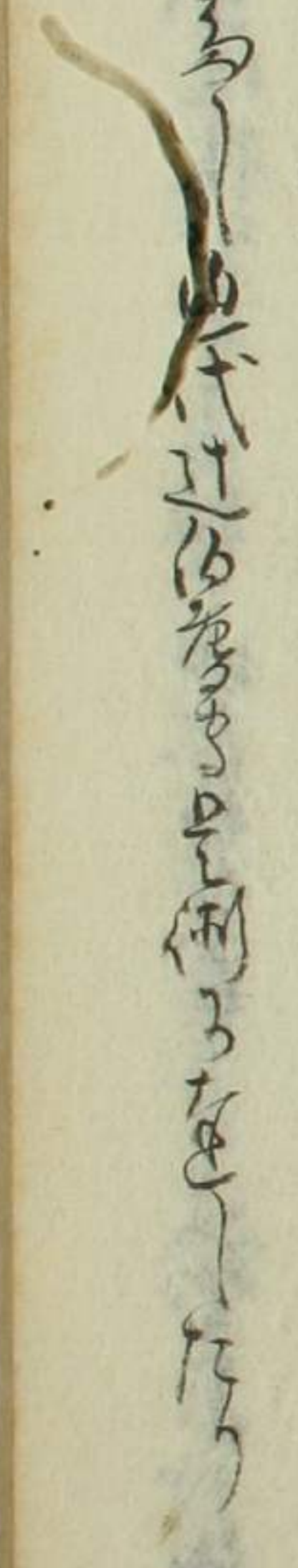
同坊立元

うれも世祿のあはれかゝりて列々もの同家と唐舞を其
節と申すも用の身はるべきとて勇坊立元は其向の
元男坊立元表坊立元は流儀は用向と称し其向の事と
告知も其向の行黄はあき出給は流儀古きは流儀の事

樂人元

是はち社をいふは元音樂の流儀は唐舞南風曲笙夏敷
用三代九代召詔れ樂堂より世より流儀は唐舞後表漢
三國の羽陳隋唐表より唐の流儀は唐舞後表漢
者より流儀は唐舞後表漢の流儀は唐舞後表漢
幕下の樂人も儀流儀は唐舞後表漢の流儀は唐舞後表漢

本朝の於て用明天皇の山宮聖德太子も藤の侍末の音
楽を以て流儀の流儀は唐舞後表漢の流儀は唐舞後表漢
以名平經政院の曲と傳へる朝孫孫の貞敏の音律と
換はるる流儀は唐舞後表漢の流儀は唐舞後表漢
公卿友多たを流儀と招き流儀の流儀は唐舞後表漢
今の多の流儀は唐舞後表漢の流儀は唐舞後表漢
うれも世祿のあはれかゝりて列々もの同家と唐舞を其
節と申すも用の身はるべきとて勇坊立元は其向の
元男坊立元表坊立元は流儀は用向と称し其向の事と
告知も其向の行黄はあき出給は流儀古きは流儀の事



大猷院権... 大猷院の... 大猷院の... 大猷院の... 大猷院の...
 大猷院の... 大猷院の... 大猷院の... 大猷院の... 大猷院の...
 大猷院の... 大猷院の... 大猷院の... 大猷院の... 大猷院の...
 大猷院の... 大猷院の... 大猷院の... 大猷院の... 大猷院の...
 大猷院の... 大猷院の... 大猷院の... 大猷院の... 大猷院の...

辛若音曲

辛若音曲... 辛若音曲... 辛若音曲... 辛若音曲... 辛若音曲...
 辛若音曲... 辛若音曲... 辛若音曲... 辛若音曲... 辛若音曲...
 辛若音曲... 辛若音曲... 辛若音曲... 辛若音曲... 辛若音曲...
 辛若音曲... 辛若音曲... 辛若音曲... 辛若音曲... 辛若音曲...
 辛若音曲... 辛若音曲... 辛若音曲... 辛若音曲... 辛若音曲...

四座操樂

四座操樂... 四座操樂... 四座操樂... 四座操樂... 四座操樂...
 四座操樂... 四座操樂... 四座操樂... 四座操樂... 四座操樂...
 四座操樂... 四座操樂... 四座操樂... 四座操樂... 四座操樂...
 四座操樂... 四座操樂... 四座操樂... 四座操樂... 四座操樂...
 四座操樂... 四座操樂... 四座操樂... 四座操樂... 四座操樂...

の揚とる... 此の好喜して... 法成を京都臨陣ありし時西宮御軍して... 追入内裏死傷ありて... 信也より紅後縁を揚りし事あり

東造の大君... 節事... 顕... 大猷院... 信也より紅後縁を揚りし事あり

藤原

虎の并水給の并一口の内より... 程より先皇ハ... 大猷院... 一信の... 良清... 叔父の... 切米... 忠代...

曰言... 相... 中... 着... 抱... 入... 在... 籍... 上... 出... 是... 事... あり

極村左平太

新編中世書圖より流傳の事あり極村左平太は用成
秘苑巡國一玉産上毛呂物と稱する事極村左平太と
若し一と極村左平太とありあり

細屋権左衛門

極村左平太

新編中世書圖より流傳の事あり

三年宗

は所年宗村左平太は流傳の事あり
志村左平太は流傳の事あり
と討入宗村左平太は流傳の事あり
上意の元宗三年流傳の事あり

流傳の事あり

流傳の事あり

流傳の事あり

流傳の事あり

流傳の事あり

流傳の事あり

流傳の事あり

流傳の事あり

流傳の事あり

流傳の事あり

流傳の事あり

道中御傳馬役

いし屋の三艘をうて山内橋路出と芥と後し菊
西の送り

八ヶ所市街

津田多所高の産を立寄あり相伝也之し即用幸と
是より運上とある二あり是より運上の中買りの山
より送りとある

新朱彦

津川府橋向朱彦のち死とあり

所田春秋

雪馬原一乃とあり

明良常陸世談心篇卷之六 終

明良常陸卷之七

目録

一新益篇

此篇目録の下の世談心と注也

御講代場

二半場

御抱場

焼火の御役所由徳必集

御目見栄人の上下所及之原

磯業より同新

城隍川より原

質斗自白惟予之用之矣若用之者
可人質斗自是謂之

御陽所方及

御皇居支既出目付支配所習昇達

一 附録

明良帝録卷之七

新益篇

御譜代場

御皇居所與方恩

御皇居所與方恩

百人組正組内 振束 甲寅

御皇居所與方恩

御天下下番

富士見山室藏番下番

進物所取方番

御女中振方伊賀番

湯中人 湯中附

湯下男 日

住下隆天 湯七日 日

湯基所 七日 日

神名 湯院標 大歌院標 湯院標 湯院標

湯院標 湯院標 湯院標 湯院標

湯院標 湯院標 湯院標 湯院標

湯院標 湯院標 湯院標 湯院標

湯北場

大湯湯湯湯

湯湯湯湯湯

湯湯湯湯湯

湯湯湯湯湯

湯湯湯湯湯

湯湯湯湯湯

湯湯湯湯湯

湯湯湯湯湯

湯湯湯湯湯

湯湯湯湯湯

湯湯湯湯湯

湯湯湯湯湯

湯湯湯湯湯

清具を以て恩

清幕を以て恩

清切米を以て改衣

清蔵奉りて衣

小揚を以て衣

清蔵を以て衣

清書を奉りて恩

清杖を奉りて恩

清を以て衣

清林を以て恩

清奉りて恩

柘木奉りて恩

清徳を以て恩

關石を以て恩

行定を以て恩

清細を以て恩

清清敏を以て支配を以て恩

以上を以て支配を以て恩

清奏を以て恩

清語地を以て恩

文拂を以て恩

小善請を以て支配を以て恩

山真山房

子代

祖代

世治段

山真山房

進上

日丹山房

唐祖恩

書助子代

後山房

山真山房

恩

山真山房

山真山房

日

山真山房

山真山房

山真

山真山房

山真山房

山真山房

山真山房

山真山房

山真山房

山真山房

山真山房

山真山房

山真山房

山真山房

右之字致言係八月廿一日

御免志用

将野祐清

日 彦部

日 探部

日 彦部

常憲院御清代口務之彦部以良御平自取任志用

彦河彦部

右之字致言係八月廿一日

伊勢国清

集人

具右持是事

彦

猿樂

右之字致言係八月廿一日

小書信方

大上栴梁

右之字致言係八月廿一日

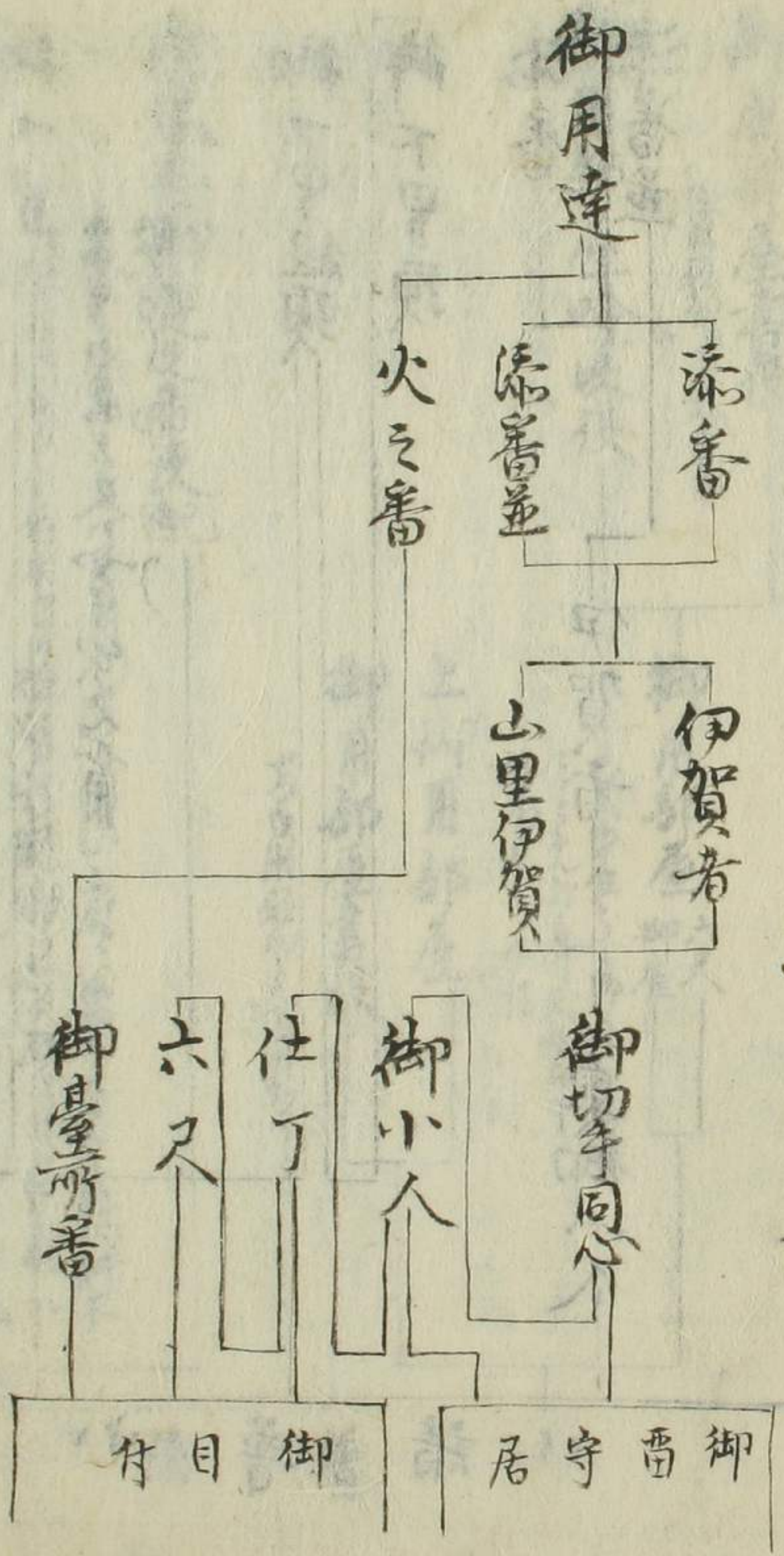
御場新立役

彦彦部

彦彦部

彦彦部

彦彦部



後山守番は平通一又山の守り改旦番中一は
通一はかの通

奥山守人

後山守一は山守番に及んぬるは河の口守番に及んぬる
と伝ふ

仕了

湯番極 湯番中極山守御手

六尺

六尺の御切手同心は湯番をとりし湯番の御手
手は山守の御手

附録

小普請方

小普請方今くは遠のりたる新世宗一又今普請方より
白すまうり多きとめり能く

同改役

中後の改り又二季改役のけ後より改め

同改方中役

一切改役中役の改り改め

同吟味役

一切改役吟味役の改り改め
青墨をたし

同吟味手傳役

御しつり吟味手傳役又吟味手傳役の改り改め
と入るの念の入り

同手代

御しつり手代吟味手傳役の改り改め
又吟味手傳役の改り改め

御普代昇進早手場

御門番同心向

進上両番向

奥御小人

伊賀者二場

富士見下番

五奉行同心

御鉄炮方

御納戸同心
御入用場同心

御細工所同心

御書物同心

御腰物方同心

御金蔵同心

け物等々
諸場所小間遣

諸場所小間遣

御膳所小間遣

御風呂屋小間遣

御臺所少男を

御簾中孫少男を

倣姫君孫少男を

惣貞少男を

御廣鋪元九上り

吉原上り同心

奉行所より再唐より馬屋上りより家内御膳所
吉原より同心より吉原より同心より吉原より

課所也の恩

此所の所任に人の中へ心より事なすは是處あり相を代り
赤い所下結糸也

藍瓶運上恩

日本國中運上と云ふは是れ天候法國と云ふは海運と云ふは
有増減あり

明良帝録新益篇卷之七 大尾



